



出張オープンキャンパス?

6月18日(金)、帝京平成大学の入試担当の方が来校され、本校で説明会を開催してくださいました。コロナウイルス感染拡大にともない、各大学は軒並みオープンキャンパスをオンラインに切り替えたり、人数を絞って事前予約制にしたりと対応に苦慮しているようです。逆に言えば、早め早めに動かなければ予約を締め切られてしまうこともあり、3年生は特に動き出しを早くする必要があります。その中で大学が直接学校に来てくださる機会は貴重です。

本校では毎年7月に大学関係者を多数お招きして「大学入試相談会」を開催してきましたが、昨年はコロナウイルス感染拡大のために中止となり、今年度も同様の理由で中止となりました。そのため、大学関係者と個別に連絡をとり、このような説明会を企画しました。今後も不定期にはなりますが、大学関係者にご来校いただき、本校独自の説明会を開催したり、独自のイベントを開催したりしていきたいと考えています。本校だけのものですから、直接質問することができますし、パンフレットだけではわからないことを知ることもできます。3年生だけでなく、1、2年生も遠慮なくどんどん参加してください。



推薦等ガイダンス実施

中間試験の最終日、大進クラス3年生を対象とした「推薦等ガイダンス」を実施しました。これは毎年3年生大進クラスを対象に実施しているもので、今後の大まかな流れを説明するとともに、推薦だけでなく総合型選抜などについても三河学習進学指導部長から説明がなされました。

特に指定校推薦においては、これまで先輩方が一般入試で合格を勝ち取り、また大学入学後においても勉学で優れた実績を上げてきたことに対して大学側から評価をいただいた形で枠が与えられたものもあります。その意味合いを十分に理解していただきたいところです。また総合型選抜においては、志望動機(志望理由)といったものが非常に重要になります。

これまで進路通信を通してさまざまな入試形態に関する説明を行ってきました。体系的な面だけでなく、それぞれの入試形態が意図するものを十分に理解した上で今後の進路選択を行ってください。



先輩からの声

今年度も卒業生が教育実習で母校に戻ってきました。本校で教育実習を行った実習生の中から、青山学院大学文学部日本文学科4年の森 曙光(もり あさひ)先輩にインタビューしました。

—教育実習、お疲れ様でした。まずは教育実習の感想をお願いします。

森: 月並みですが、あっという間に終わったという感じでしたね。全体的に楽しかったという印象もあるのですが、もっとできたのではないかと、もっとやるべきだったのではないかとという思いが強くなります。学校以外の学びも含め、今回指導いただいた内容は教師としても人としても生かしていきたいし、とても成長できた2週間だったと思います。



—具体的にはどんなことが印象的でしたか。

森: 授業の中で、リアクションペーパーを書いてもらった際に、最初の授業で「テスト対策の授業のようだ」といわれ、衝撃を受けました。自分が展開していた授業が、受験に向けた古典知識、常識などになってしまい、生徒が楽しめるような授業ではなかったんだと思いましたね。それを次の授業などで生かしてあげたことが大きかったと思います。

—そもそもどうして教職を目指すようになったんですか。

森: 自分の中学時代を思い返すと、すごく尖った生徒だったんですよ。ものごとをマイナスで見えてしまいがちだったんですが、高校に入った時にそれを何とかしたいと思っていました。そういうマイナスになりがちな部分を在学中にプラスに変えてくれたのが教わった先生方だったので、自分もそういう生徒がいたら、考え方の根本に関わっていきたくと思うようになったのが教職を目指すきっかけでしたね。

—そんな自分の高校時代はどうでしたか。

森: 正直言うと、期待に応えられなかったという印象がありますね。期待に応えたいという思いが自分の頑張るモチベーションではあったんですが、今になってそれに応えきれなかったという思いが強くなります。あと、勉強が面白いということに気づいたのは高校時代でした。友達や先生に恵まれた3年間だったと思います。期待されただけでは頑張れなかったと思うし、周りからも頑張ろうと言われてもらったのは大きいと思いますね。

—進路決定はいつごろでしたか。



森: 当初は文学部にするか、経営・商学関係にするか迷っていました。正直言うと願書を出す直前まで迷ってましたね。両方やってみるという方法もありますが、生々しいことを言えば、受験料の関係もありましたので、そんなにたくさんの大学は受けられなかったわけです。いろいろ考えて、大学を出てしまったら文学は専門的に勉強する

機会がなかなかないということで、最終的に文学部に決めました。

—進路決定に関して、何か思うところがありましたか。

森：受験がゴールになってしまっているところがあったのは大きな反省点です。受験勉強に打ち込むあまり、大学の説明会も満足にいきませんでした。ですから大学の説明会にはたくさん行った方がいいと思いますね。大学の特性を知る上で事前に大学を見に行った方がいいと本当に思います。

—受験期にはどのように勉強していましたか。

森：修学旅行が終わったあたりで、一気に受験モードになっていきました。冬休みに参考書を買って勉強を始めた記憶があります。とにかく英語が苦手だったので英語の参考書から手をつけました。朝4時に起きて2時間勉強し、学校が終わっても放課後残って勉強して、帰りの電車では単語の勉強をし、家でも勉強して早めに寝る、というパターンを繰り返してました。良かったことは、スタートダッシュが決まったことで、それによってモチベーションを高めることができたということです。あと、「修学旅行の後」とは言いましたが、英単語に関しては2年生の9月くらいからやり始めていました。3年生になってからも勉強のペースはあまり変わらなかったですね。ただ夏はあまり身が入らなくなって、科目も絞り込んでしまったために、それが不安要素となって残るようになったのは反省点です。特に国語はあまりやらなかったのが、最後の方でそれが尾を引きました。やっぱり夏は時間もあるので、バリバリ勉強した方がいいと思います。スタートダッシュを決め、さらに夏に知識を蓄えると、秋の演習でさらに量的にも質的にも充実していくと思います。

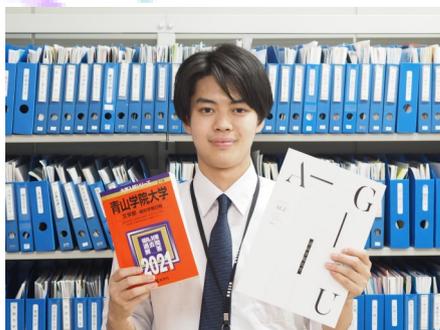
—話は変わりますが、大学ではどのようなことを勉強していますか。

森：日本文学科で中国古典文学を専攻しています。卒論は『西遊記』で書こうと思っています。中国古典文学専攻にしたのは、教職の必修科目で漢文学概論を受講していた時の先生に影響を受けたのがきっかけです。

—自分の大学生活はどうですか。

森：正直言って遊びも勉強も中途半端な印象は否めません（笑）ただ、高校時代は受験や学歴といったものにとらわれすぎていたのが気がするんですが、大学に入ってからにはそれにとらわれずに頑張っている人と出会い、良い影響を受けることができたというのはありますね。

—では最後に、在校生（後輩）へのメッセージをお願いします。



森：人生をやり直せるなら、まだまだやれたであろう受験勉強をもう一度やりたいという思いがあります。そういう意味で、人生のターニングポイントになるのが受験だと思うんですね。受験を考えている人は、早ければ早いほどいいと思うので、とにかく動き出しは早くした方がいいと思います。保善の先生は頼りになるので、塾にもいかず、教材にも困らずに受験に邁進できたのは、質問すれば先生方が答えてくれたからだだと思います。ぜひ頑張っ

て自分の未来を切り開いていってほしいと思います。



サマーセミナーについて

保善高校では例年、夏期休暇中の学習行事としてサマーセミナー（夏期講習）と勉強合宿を開催してきました。昨年度は新型コロナ感染拡大防止の観点から、勉強合宿は中止となり、サマーセミナーは映像配信形式で実施となりました。今年度についても新型コロナ終息の兆しが見えつつあるものの、生徒諸君の健康を第一に考え、勉強合宿は中止という判断に至りました。

本校では昨年度から授業映像の配信などに取り組んできましたが、今年度は対面授業の維持と双方向型オンライン授業システムの確立という二つの軸を据えて、生徒諸君の学習活動を止めないようにしてきました。結果的にクラスターの発生による休校もなく、対面授業を実施してこれましたが、今後を見据えて双方向型オンライン授業システムも研究を進めています。

そしてこのシステムを生かしたオンラインサマーセミナーをiPadが導入されている第1学年を対象として7月に実施する運びとなりました。また、第2学年と第3学年については安全な環境でサマーセミナーを受講してもらうため、分散登校での開講とすることとなりました。なお、8月末に実施されるサマーセミナーは2学期の導入にあたる期間でもあり、通常の対面授業形式で実施が予定されています。皆さんの積極的な参加に期待しています。

トピックス

大学も徐々に対面授業へ

コロナの影響でオンライン授業主体だった大学も、ようやく対面授業へと切り替わり始めました（実習・実験のある授業については昨年度から一部対面授業を解禁していたようです）。学生数が非常に多い中での感染症対策は大変だとは思いますが、徐々に本来の姿へと戻りつつあるようです。しかし今後の状況次第ではまたオンラインへと戻る可能性もありそうです。

就職に関するスケジュール

高校を卒業してすぐに就職を考えている場合、スケジュールについて簡潔にまとめられたサイトがあります。大まかなスケジュールについては、右のQRコードからアクセスしてみてください。



オンラインオープンキャンパス

先ほども触れましたが、この夏のオープンキャンパスはオンラインで開催するという大学がたくさんあります。ソフトやアプリのインストールが必要な場合もありますので、まずは各大学のHPでチェックしましょう



コロナの話題がニュースで報じられない日はありません。感染者数は何人だったとか、どこそこでクラスター発生したとか、毎日その話題ばかりです。ところで、インフルエンザってどうなのでしょう。年明けから3月頃までインフルエンザが猛威を奮うはずなのですが、今年は全然インフルエンザの話題を耳にしません。ふと気になって国立感染症研究所のHPを見ました。右のグラフは過去10年間の定点におけるインフルエンザ感染者数を表しています。小さくて申し訳ないのですが、今年はどうでしょうか。実はほとんど出ていないのです。今年の感染者数は限りなく「0」付近で推移しているのです。山になっているのはすべて過去のデータです。うがい、手洗い、アルコールによる消毒、マスク着用が徹底されると、私たちはインフルエンザにはかからないものなのですね。もちろんコロナはそう簡単にはいかないわけですが、それでも私たちが少しでも努力することで予防につなげることができるわけです。まだまだ先の見えない戦いではありますが、気を抜かずに予防に取り組まないといけませんね。

